

石原大臣による記者会見の概要

日時：平成29年4月18日（火）17：22～17：28

場所：内閣府

【冒頭発言】

今日の午後、オーストラリアのチオボー貿易大臣とバイの会談を行った。我が方の草賀駐オーストラリア大使、また、オーストラリアのコート駐日大使も同席した。

これはTPPに関連して、5月にハノイで会合がある。TPPの今後の方向性を議論する上でハノイの会合は極めて重要な会合であるので、そこでの議論を日本と豪州で主導していこうということで、意見が一致した。

その他にも、11カ国が、ハノイでは結束してTPPの方向を打ち出さなければならぬになってしまうという認識でも一致した。

また、5月の閣僚会合前に、カナダで事務方の準備会合も予定されているので、チオボー大臣と私とで連携して、準備会合や閣僚会合での議論を日豪で主導的に進めていく旨一致した。

その一環として、私もアセアンのTPP加盟国の大使ともこれから意見交換をしていくし、先方もアジアの国々は大事だということで意見交換をしていく。また、カナダ、ニュージーランド、メキシコ等とも緊密にオーストラリア側も連絡をとって、互いに取り得た情報を共有していこうという話をした。

【質疑応答】

（記者）今回の会談では、米国を除く11か国でのTPPの発効について何かやりとりはあったか。

（石原大臣）米国については、同じアジア・パシフィックの重要な貿易相手国であると、米国にも十分な配慮が必要だということは先方も言っていたし、こちらからもその通りであると。今、ちょうどこちらの会合と同時刻に官邸の方で日米経済対話がスタートしたばかりなので、その様子もしっかり見て、連携していけるようにしていこうという話をした。

（記者）11か国で一致して方向を打ち出さないとばらばらになるということだが、それは11か国でのTPPということも視野に入れてということか。

（石原大臣）私の方からは、国内手続が終わっているのは日本とニュージーランドだけであって、オーストラリアも労働党、今は保守党だが、労働党側が反対にまわっているなかで、12というなかで議論を進めるのが難しいことは承知しているので、オーストラリアのことを考えても、やはりそれ以外の選択肢もこれまで申し上げている通り、全ての選択肢を排除しているわけではないので、日米経済対話の中でもアジア・太平洋にハイレベルな貿易のルールを互いに築いていこうということも話していたので、それと同じように私もTPPの枠組みは非常にいいものなので、そういったものは大切にしていこうということで意見が一致した。

（記者）チオボー大臣が囲み取材の中で、大臣との会談の中で11か国での発効に前向きな

印象を受けたと言っていたが、そういうニュアンスのやりとりはあったのか。

(石原大臣) 私は特に11か国でというよりも、米国はトランプ大統領になって脱退すると署名をしたが、目指そうとしているものは、日米経済対話の中でもまさにTPPでつくったようなものをアジア・太平洋に広めていこうということで一致しているので、そこは11人ということではなく、米国も将来戻ってこられるようなものは引き続き残っている者で議論をしていくことが重要であるし、ただ、5月の時に11か国がばらばらのことを言ってしまうと空中分解してしまうので、日豪が中心となって取り組んでいこうと一致したのだと思う。

(記者) 11か国での枠組み作りというのは、二国間協定を好む米国をけん制する意味合いというのものもあるのか。

(石原大臣) 日米経済対話の中で、記者会見でペンス副大統領も麻生副総理も言っていたとおり、アジア・太平洋の米国を含む中で、自由貿易であり、ハイレベルなルールに基づいた経済体制を作っていくことが肝要だということは米国も認めているので、そういうなかで議論がばらばらにならないように、日本が主導して豪州と今日話をして、これまでは電話では話をしてきたが、方向性が大分見えてきたなという感じはする。ただ、もちろん大臣が一堂に会して会ったことはないし、チオボー大臣とは電話では話したが実は私も初めて会ったので、今日はいい議論ができたというのが率直な印象である。

以上